

岩手県水稻品種における混入米のDNA鑑定技術

近年、食を巡る消費者の安心・安全に対する関心の高まりから、生産流過程を明確にすることが求められています。そこで、岩手県水稻奨励品種・準奨励品種を対象に品種識別を行うためのDNA鑑定技術を確立しました。

定性分析では、異品種が5～10%以上混入した場合に判定することが可能です。定量分析では、異品種の混入割合を推定することができます。DNA鑑定にかかる所要時間はおよそ1日です。

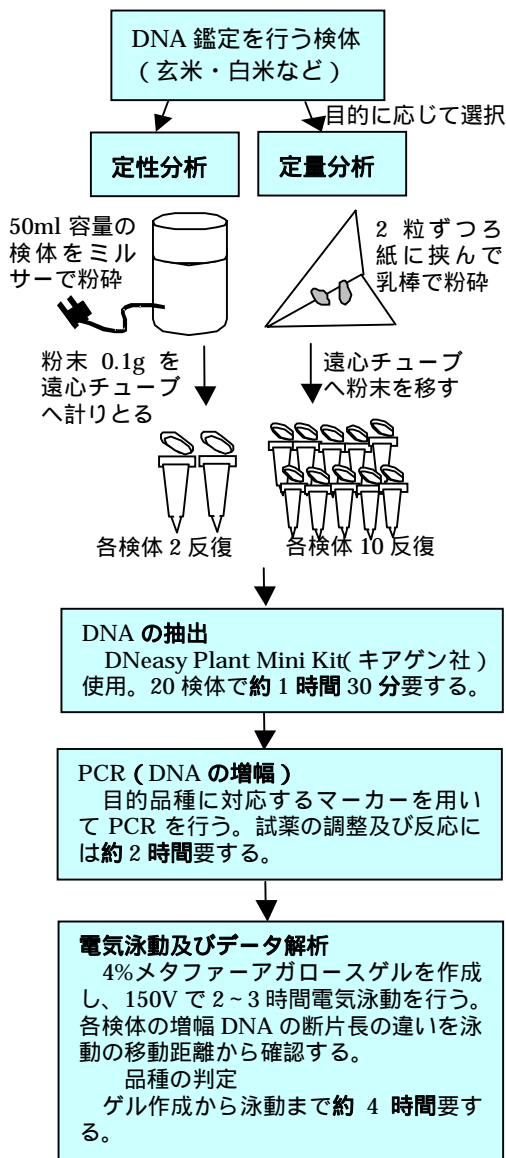


図1 DNA鑑定の流れ(一例)

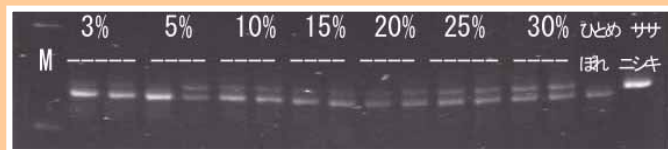


図2 定性分析の例

- ・ひとめぼれにササニシキを3%、5%、10%、15%、20%、25%、30%の混合率で調整
- ・他品種が混入すると、目的品種以外の位置にバンドが検出される。



図3 定量分析の例

M: サイズマーカー

1-10: 2粒×10反復で解析

11: かけはし

12: いわてっこ

20粒中18粒がかけはし、2粒がいわてっこ
この解析結果では、10%程度の混入率と判定